

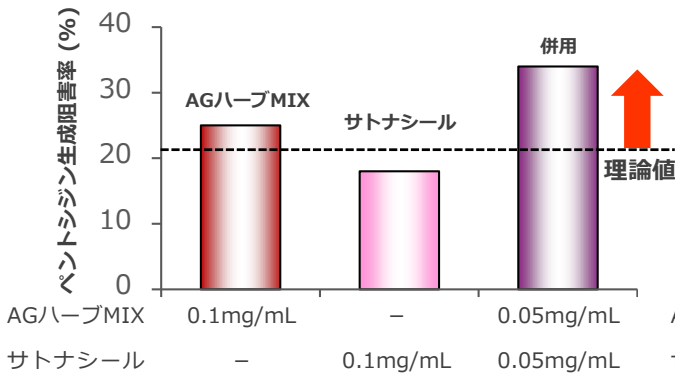
AGハーブMIXとサトナシールの併用使用

【実験】AGEsの生成抑制作用

ヒト血清アルブミン(HSA)とグルコースにAGハーブMIX、サトナシールを加えた反応液を60℃で40時間加熱した。加熱後、各反応液中の糖化最終生成物(AGEs)を測定し、抗糖化作用を評価した。

【結果】

- AGハーブMIX、サトナシールともにAGEsであるペントシジンの生成を抑制した(生成後の分解を含む)。
- **AGハーブMIX、サトナシールを等量で併用することで相乗的な抗糖化作用が認められた。**

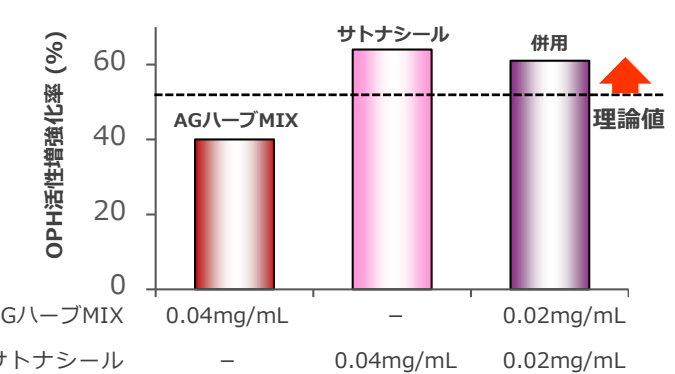


【実験】AGEs分解酵素の活性化作用

酸化タンパク質分解酵素(OPH)はAGEsを分解することが知られている。抗糖化素材を添加してOPH活性への影響を検証した。

【結果】

- OPH活性の増強作用が認められ、増強化率の高さはサトナシール > AGハーブMIX であった。
- **等量で併用すると互いに作用を打ち消しあわずサトナシール単体とほぼ同等の作用であった。**



クリプトベータの脂質代謝改善作用

被験者：20歳以上65歳未満のLDLコレステロールが高めの男女40名(男性18名、女性22名)

解析対象者：プラセボ群18名、被験食群19名

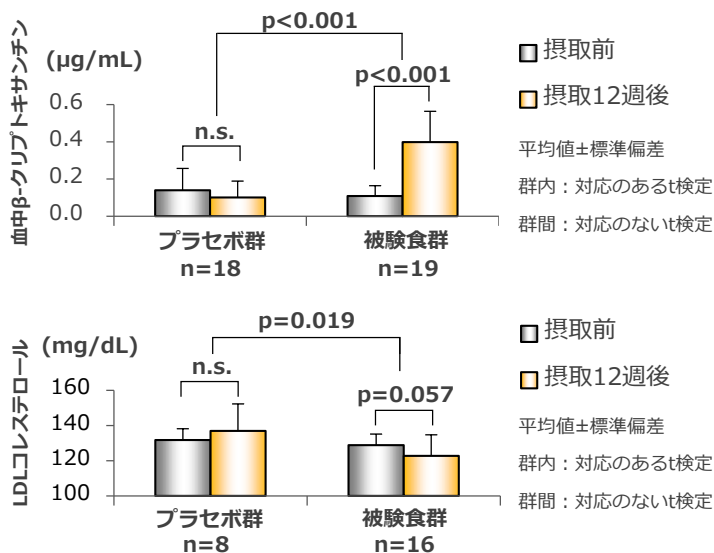
摂取量：β-クリプトキサンチン(β-CRP)として0.5mg/日

摂取期間：12週間

デザイン：無作為化二重盲検プラセボ対照並行群間比較試験

【結果】

- 0.5mg/日、12週間摂取で血中β-クリプトキサンチン濃度が上昇
- プラセボ群と比べ、**被験食群で有意にLDLコレステロールが低下**
- 中性脂肪の値が高め(92mg/dL以上)なとき、**中性脂肪が有意に低下**



プラセボ群のうち食事由来のβ-CRPがより低い群と被験食群の比較

ビレチンの睡眠改善作用

被験者：28-41歳の男性4名

摂取量：ビレチン 20mg/日

摂取方法：就寝前に摂取

デザイン：二重盲検クロスオーバー比較試験

評価方法：脳波センサ、各種アンケート

【結果】

- 疲労感VAS検査より、4名中3名が**起床時の疲労感が有意に軽減**した。
- OSA睡眠調査票より、因子Ⅱ(入眠と睡眠維持)、因子Ⅳ(疲労回復)の項目で睡眠の質の向上が示唆された。
- 脳波の解析より、4名中3名で**中途覚醒が減少**した。

